

十月の俳句

(2 0 2 2 / 1 0)



目次

たべもの俳句	モノロク俳句	歳時記俳句
13	8	1
〽	〽	〽

10月の他の別名

吉月・陽月・時雨月・初霜月・建亥月・良月・大月・雷無月・神去月・鎮祭月

(宇佐美保幸)メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに

巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

ニュータウン主なき住居実南天

ニュータウン団地の祭り天高し
天高し誰彼もなくラインして

一直線に何を届ける金木犀
生真面目に生きて今年も金木犀
地に落ちてさらに薫るや金木犀

皇帝ダリアこれがダリアか大木か

人ごみを避けて巣ごもり秋日和
秋日和されど血圧高止まり
秋日和されど病院年老いて

実石榴や熟れて怒りて破裂して

家族あげ総力戦や運動会



父走る子も走るかな運動会
平和にてピストル禁止運動会

真弓の実エロテイツクなり鈴なりは
型どおり面白くなく菊花展

同じ顔朝昼夜の菊人形
血は出ぬが切腹するか菊人形

秋明菊生き様映す白無垢に

秋の蝶だんだん消える我もまた
秋の蝶あの世目指して弧を描く
忘れ物思い出せない秋の蝶
秋の蝶あの世の園にわれ誘う

巢鴨には年寄りあふれ菊日和
ここかしこジジババ巢鴨菊日和



ダルマガク島の岩肌張り付いて
ダルマガク負けじ潮風張り付いて
岩肌に潮風耐えるダルマガク

あきらめも時に大事だ蔦紅葉
門柱の表札覆う蔦紅葉

苦しみの多くを超えて草紅葉
励まされ励ますように草紅葉

小紫すくすく伸びて子だくさん
小紫ともかくゆれて風の中

付箋貼り一時留め置く秋思かな
それぞれに異なる秋思それぞれに
イヤフォンを外せば愁思始まりぬ



大銀杏黄葉とならず何になる
蝶のごと舞って踏まれる散る銀杏

通院の雑木紅葉のひとしきり
我もまた雑木紅葉かひとり言

燃え上がる満天星紅葉豊かなり
用意ドン満天星紅葉走り出す
行儀よく満天星紅葉並びけり

七十五年この国で生き苔紅葉
何もせず疲労困憊秋の暮れ

記憶など無駄なものだと蚯蚓鳴く
世界遺産画像パソコン蚯蚓鳴く

いけぶくろう釣瓶落しの待ち合わせ



夜長かなネット空間果てしなく
夜長かなネット空間果魑魅魍魎
何度起き何度時計を夜長かな

朝寒の玄関守るピラカンサ
七色になれと難題ピラカンサ

朝寒や右脳回転ブログ書く
朝寒や歯磨き急ぐみぎひだり
朝寒やカチカチカチとキーボード

キーボードカチカチ音の夜寒かな
夜寒かなパソコン画面くもりけり

鈍行もそれは人生秋深し
酔うほどにあの世近づく秋深し

パソコンの音量上げるうそ寒や



モーロク俳句

秋を見る拗ねたる秋がモーロクす
モーロクし頬杖に聴く秋の音

モーロクし忠告拒み秋の空
秋の空モーロクすれば高すぎる
モーロクし晩秋の空ただ青く

モーロクし嘆きむなしく秋の雲
モーロクし地球儀回し秋の雲

モーロクし不協和音の秋の虹

モーロクしあの世に誘わる秋の風
モーロクし透明人間秋の風
秋の風何を相談モーロクし



モーロクしごまかしきれぬ秋の風
モーロクし膝を抱けば秋風が

モーロクし肩の荷おろす夜の秋
モーロクし何を偲ぶる夜の秋
モーロクしものは錆びゆく秋の夜

モーロクし妖怪となり秋うらら
モーロクしひとりひとりの秋の声

モーロクし叩きもできず秋の蠅

星月夜モーロクすれば風の音
モーロクしただ眠るだけ星月夜

モーロクし案山子もやはり姥捨てに
モーロクし矜持秋気澄む



空高く微動だにせずモーロクす
モーロクし頑張る踏ん張る空高し
モーロクし屈託多く空高く
モーロクしされど生き抜く天高し
生かされてモーロクすれど天高し

モーロクしよろけて動く翺雲
モーロクし生かされており翺雲

モーロクし夫婦の暮らし柿の秋
記憶力薄れモーロク柿熟す

モーロクしあてにもされず烏瓜
モーロクし魔がさすことも烏瓜
モーロクし座禅は無理と烏瓜

末枯れて吾は小さくモーロクす



モ一ロクし愁思でもなく独り言
モ一ロクし愁思まるくし緩やかに
モ一ロクしどこへも行けぬ愁思かな
モ一ロクし心も薄く秋思かな
モ一ロクしたただ座しており秋思とも

モ一ロクしすすするラーメン夜寒かな
秋寒しわが影長くモ一ロクし

モ一ロクし心耕せ温め酒
温め酒一言居士もモ一ロクし
モ一ロクし懲りず継ぎ足す温め酒

モ一ロクし耳かき探し夜長かな
モ一ロクしトイレ回数夜長かな
長夜かな夢を怖るるモ一ロクし
長き夜も気儘なりけりモ一ロクし



モーロクし燃えてあの世に紅葉どき
モーロクし今年も生きて紅葉かな
紅葉酔いワインで酔いてモーロクや
加速してモーロク進む紅葉晴

モーロクし限界示す蔦紅葉
独り言多しモーロク蔦紅葉

モーロクし今日もぼんやり草紅葉

银杏黄葉モーロクすれど浄土あり
大银杏ごとくモーロク黄葉なる

モーロクしひたすら生きるそぞろ寒

うそ寒の日本の国はモーロクし
うそ寒やうそ寒き世にモーロクす



モーロクしさびしさありて秋の暮れ
 モーロクし故にモーロク秋の暮れ
 モーロクし足もと暗く秋の暮れ
 秋の暮れ何が過ちモーロクす
 モーロクの顔が鏡に秋の暮
 モーロクしもう真つ暗闇や秋の暮れ
 モーロクし暮れて気づかず秋の暮
 モーロクし終わりのみえる秋の暮
 モーロクし時によるめき秋深し
 モーロクし呂律怪しき秋深く
 モーロクし勝ち負け無駄に秋深む
 モーロクし日々を惜しんで秋深み
 モーロクし相応にいき秋惜しむ
 感情線モーロクすれど秋惜しむ
 モーロクし七転八倒秋惜しむ





たべもの俳句

ホットサンドコロツケはさみ風は秋
月満ちて月欠けてゆくゆで卵

オムレツに何を添えるか秋日和
唐揚げでジャンボおにぎり空高し

落花生皮が張り付くデイスプレイ
塩ゆで生落花生おつまみに

烏わたるおつまみ缶に吟醸酒
鶏カツを卵でとじて秋孤独

ラフランス熟睡すれば完熟す
里芋を炊き込みピラフえび加え



菊日和あんパン食べる二個食べる
ハンバーグ自愛の秋と自画自賛

キノコ鍋シメジエリンギドコモダケ
豚バラ肉きのこ加えて炒め物

牛すじの煮込みカレーや秋深し
とろとろりすする醍醐味とろろ汁

駅弁を買ってお祝い敬老日
ほっくりとやさしい甘み栗おこわ
栗ご飯数を数えて平等に

長芋を叩いてチヂミほくほくに
ほくほくの長芋入りの青椒を

グラタンのチーズの焼き色秋うらら



石臼のまわるそば屋の新そばを
のぼり旗そば屋の誘惑走り蕎麦
割り箸や過去や未来や新蕎麦や
年金生活贅沢なれど新蕎麦を

皮までも国産檸檬賞味する
瀬戸内の旅に憧れレモンの香
フライなら必ずレモン添えし妻

煮くづれし南瓜もまたやさしけり
南瓜を煮て一日を終わらせる

松茸が並べば格差改めて
松茸を食べぬ歳月多くなり

銀杏を煎ってハフハフ吟醸酒
銀杏の数を数えておつまみに



新米が主役となりて夕餉かな
日本人これぞ新米握り飯
新米を少し固めに水加減
後期高齢爺婆二人今年米

新酒だと聞いておかわり立ち飲み屋
理屈などあつて無きもの今年酒
酒好きは新酒や古酒と差別なし

缶酎ハイついついついに夜長かな
浅草や夜長の町でもんじや焼き

紅葉狩りもみじ饅頭取り寄せて

秋深く子持ちカレイを甘辛く
お土産はフライドチキン秋深し





